

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 3 区分
 【発行日】平成26年10月16日 (2014.10.16)

【公開番号】特開2014-47982(P2014-47982A)
 【公開日】平成26年3月17日 (2014.3.17)
 【年通号数】公開・登録公報2014-014
 【出願番号】特願2012-191591(P2012-191591)
 【国際特許分類】

F 2 4 F 11/02 (2006.01)

【F I】

F 2 4 F	11/02	L
F 2 4 F	11/02	S
F 2 4 F	11/02	K

【手続補正書】

【提出日】平成26年8月29日 (2014.8.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

室内の人体を検出する人体検出部と、

予め入力されたタイマー設定時刻の所定時間前から空気調和機の圧縮機の第 1 の予熱運転を実行し、前記タイマー設定時刻から所定時間経過するまでの間に、前記人体検出部が人体を検出したとき、前記第 1 の予熱運転より前記圧縮機の回転数が高い第 2 の予熱運転を実行する駆動制御部とを備える

ことを特徴とする空気調和機。

【請求項 2】

前記駆動制御部は、

前記第 1 の予熱運転実行後、前記タイマー設定時刻から所定時間経過するまでの間に前記人体検出部が人体を検出しなかったとき、および、前記タイマー設定時刻から前記所定時間が経過したとき、前記第 1 の予熱運転を停止する

ことを特徴とする請求項 1 に記載の空気調和機。

【請求項 3】

前記駆動制御部は、

前記第 2 の予熱運転の実行後所定時間経過するまでの間に暖房運転開始の指示信号が入力されなかったとき、および、前記第 2 の予熱運転の実行後前記所定時間が経過したとき、前記第 2 の予熱運転を停止する

ことを特徴とする請求項 1 または請求項 2 に記載の空気調和機。

【請求項 4】

前記人体検出部は、

前記室内を撮像するカメラおよび前記室内の明るさを検出する明るさセンサを有し、

前記駆動制御部は、

前記明るさセンサが所定値以上の明るさを検知すると、前記カメラの首振り機能を動作させ、前記カメラによる撮像を開始させる

ことを特徴とする請求項 1 に記載の空気調和機。

【請求項 5】

前記人体検出部は、

前記室内を撮像するカメラを有し、

前記駆動制御部は、

前記カメラが所定値以上の明るさを検知すると、前記カメラの首振り機能を動作させ、

前記カメラによる撮像を開始させる

ことを特徴とする請求項 1 に記載の空気調和機。

【請求項 6】

室内の人体を検出する人体検出部を備える空気調和機が、

予め入力されたタイマー設定時刻の所定時間前から空気調和機の圧縮機の予熱運転を実行した後、前記タイマー設定時刻から所定時間経過するまでの間に、前記人体検出部が人体を検出したとき、前記圧縮機の回転数を上昇させる

ことを特徴とする空気調和機の制御方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

前記した課題を解決するため、本発明の空気調和機を、室内の人体を検出する人体検出部と、予め入力されたタイマー設定時刻の所定時間前から空気調和機の圧縮機の第 1 の予熱（例えば、低能力予熱）運転を実行し、前記タイマー設定時刻から所定時間経過するまでの間に、前記人体検出部が人体を検出したとき、前記第 1 の予熱運転より前記圧縮機の回転数が高い第 2 の予熱（例えば、高能力予熱）運転を実行する駆動制御部とを備える構成とした。その他の構成については、実施の形態の項で述べる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

駆動制御部 131 は、リモコン Re からのリモコン信号や、人体検出部 132 による人体検出結果、温度判断部 133 による温度判断結果に基づき、室内機 100 の前面パネル 106、上下風向板 105、運転ランプ 122、予熱ランプ 121 および室内ファン 103 と、室外機 200 の室外ファン 203 および圧縮機 205 とを制御し、低能力予熱（第 1 の予熱）や、高能力予熱（第 2 の予熱）や、通常暖房への運転切り替えを行う。低能力予熱、高能力予熱、通常暖房の詳細は後記する。